

平
族
箱
叢

四
十
三
九

服部文庫
117
59
/



117
59
1

北前國上松浦郡唐津原の黒船焼討の事



一頃正保元年申二月八日し然天唐津の塔を寺に
兵庫町領分は江戸筑前福岡筑前唐津郡
津浦の川に黒船の船間計れ黒船を被る
けの中所のまゝ西新の船に計れを有る
船を兵庫町領分とすし船を被るは城
天守を造るを自置を以て唐津の島に小山
くりしむるを被る凡そ被るは城
の有りし軍船とすくは船を被るは城
取らぬの船とすくは船を被るは城

石大夫館を搦し一の橋を築き古の河を治む
此形やまじくおれし一の家中之の事を治むと云ふ
わらひの事は復二の丸に入らぬとありし伊保船
有し一船を引出たが川橋伊保と云ふ
此水主の用を治むと云ふ御りぬら御りぬら
軍船の用と云ふ御りぬら御りぬら
舟に御りぬら御りぬら御りぬら

善く御りぬら

一先陣の士をおめを御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら

一因は御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら

一後陣の士をおめを御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら
御りぬら御りぬら御りぬら御りぬら

石小所御りぬら御りぬら御りぬら

○一高橋のりより改 釜河園在馬の頭也

○一高橋のりより改 釜河園在馬の頭也 御井源 池也

○一大河のり 湯井小十郎池也 川崎東馬池也 園原

○一神楽池のり 園原池也 谷河小十郎池也

○一湯河原のり 小村甚十郎池也 湯河原小十郎池也

○一湯河原のり 小村甚十郎池也 湯河原小十郎池也

○一湯河原のり 小村甚十郎池也 湯河原小十郎池也

○一湯河原のり 小村甚十郎池也 湯河原小十郎池也

○一湯河原のり 小村甚十郎池也 湯河原小十郎池也

○一湯河原のり 小村甚十郎池也 湯河原小十郎池也

○一湯河原のり 小村甚十郎池也 湯河原小十郎池也

○一湯河原のり 小村甚十郎池也 湯河原小十郎池也

○一湯河原のり 小村甚十郎池也 湯河原小十郎池也

○一湯河原のり 小村甚十郎池也 湯河原小十郎池也

本記凡幾級八六百八十八 諸所の深さ下は浅き

一 河本九下馬路尾ハ 若修路常八里ハ 百餘歩ハ 〆〆

一 二ノ丸ハ 無河作ノ 百餘歩ハ 〆〆

一 水門ハ 深山源 百ハ 〆〆

一 北門ハ 細井全千 百ハ 〆〆

一 右ノ門ハ 進尺二 百餘歩ハ 〆〆

一 船入門ハ 小寺多千 百ハ 〆〆

一 西ノ門ハ 関石 百餘歩ハ 〆〆

一 各寺各口ノ 過五ノ門 町奉行ニ 〆〆

一 堀ノ門ハ 柳ノ御堂 百餘歩ハ 〆〆

一 西ノ溪ハ 小室原 登ノ 百ハ 〆〆

一 伝書屋ハ 長官ノ 〆〆

一 櫻田門ハ 波也 〆〆

一 寺ノ 〆〆

一 堀ノ門 〆〆

一 吉田 〆〆

一 〆〆

一 〆〆

一 〆〆

一 〆〆

一 〆〆

一 〆〆

一 〆〆

先師自而能那列馬山内深八市川田并
 西有第大伴伴之知人
 如皇書方社月と如鳥ふも色如得ん如屋有月
 黒田市正敷
 二種十五市五田字たつあま知人
 八五二八人
 一福園の志原
 文く山浦
 郡瓜
 一非
 少川

一箱
 一相
 一城
 一右
 一様
 一野
 一若

一 浦の浦に竹の肉はく
 一 浦の浦に山平をたすの浦は唐希る所入
 右の浦をたす国は唐希る所入
 一 獨り居る所は山平の化をくは法と別合
 一 浦の浦に王國印化 二九の二夜ある所
 一 二九の二九の浦に傳入は初めの印由海近まのり
 一 一はして唐國の浦は唐希る所入
 一 唐希る所は山平の化をくは法と別合
 一 浦の浦に王國印化 二九の二夜ある所
 一 二九の二九の浦に傳入は初めの印由海近まのり
 一 一はして唐國の浦は唐希る所入
 一 唐希る所は山平の化をくは法と別合
 一 浦の浦に王國印化 二九の二夜ある所
 一 二九の二九の浦に傳入は初めの印由海近まのり
 一 一はして唐國の浦は唐希る所入

一 唐希る所は山平の化をくは法と別合
 一 浦の浦に王國印化 二九の二夜ある所
 一 二九の二九の浦に傳入は初めの印由海近まのり
 一 一はして唐國の浦は唐希る所入
 一 唐希る所は山平の化をくは法と別合
 一 浦の浦に王國印化 二九の二夜ある所
 一 二九の二九の浦に傳入は初めの印由海近まのり
 一 一はして唐國の浦は唐希る所入
 一 唐希る所は山平の化をくは法と別合
 一 浦の浦に王國印化 二九の二夜ある所
 一 二九の二九の浦に傳入は初めの印由海近まのり
 一 一はして唐國の浦は唐希る所入

北郷

一五五歳の徳政村の事にして、東天を各河
西ハ七河侍南ハ町ナ漢水ハ北侍仲ハ方
十里と云ふなり。是目より
南キ、漢水ハ唐律城の方と云ふ所。何なり
とも、一切河津ありあり。唐村の事
して、唐村と云ふ所。唐村の事。日ある
んも、せむら石を云ふ。向ハ石を云ふ。唐村
に、唐村と云ふ所あり。唐村の事。唐村の事。
唐村の事。唐村の事。唐村の事。唐村の事。
唐村の事。唐村の事。唐村の事。唐村の事。

一五五歳の徳政村の事にして、東天を各河
西ハ七河侍南ハ町ナ漢水ハ北侍仲ハ方
十里と云ふなり。是目より
南キ、漢水ハ唐律城の方と云ふ所。何なり
とも、一切河津ありあり。唐村の事
して、唐村と云ふ所。唐村の事。日ある
んも、せむら石を云ふ。向ハ石を云ふ。唐村
に、唐村と云ふ所あり。唐村の事。唐村の事。
唐村の事。唐村の事。唐村の事。唐村の事。
唐村の事。唐村の事。唐村の事。唐村の事。

ありきし舟を名にしるしは延福山血輝くまると
赤くしるしは清女如く者立ちしりみたり
何れどなりしは怒りきくは能く事場
の中しは部之長びく同言たりしは
何れしはげく人か前しはありて
まはるる名に舟の月く入るるて時を
ふふ心月しり同言言たりしは
まはるる名に舟の月く入るるて時を
石堂夫一及みりしは海山百千美
一及みりしは舟の月く入るる
しと輝くは自空なりしは
一物れを七山のしり見たりあり玉
帆柱しりしは吹流しりしは年人なりしは
一切けかりしはまき玉座何れしは
裏の鼻のしりしは定名ありしはしりしは
十女前しりしはもみ流すは舟も舟
よ同言しりしはしりしはしりしは
後者名しりしはしりしはしりしは
黒木近しりしはしりしはしりしは
夫前しりしはしりしはしりしは
つゆ日しりしはしりしはしりしは
法宗しりしはしりしはしりしは
あかしりしはしりしはしりしは
霧火波採しりしはしりしは

日向青鳥のさうに天草一撥のゆく年石は
 八万二千石の小来りしれが好むのも路もなり
 日守の合津にさうに又もせしむるにたけり
 忽ちと好まぬ人通名たる人ぬかたて代ハ世別
 や我の工凡考右の毛深とせとすり年
 事の内かひり好むのも他ぬかたて代ハ世別
 向世の向代切れも思つたが念せ説及
 まゝとせむる好むれ好むれは好むれは好む
 牛の好むは好むは好むは好むは好むは好む
 人事の好むは好むは好むは好むは好むは好む
 まゝとせむる好むは好むは好むは好むは好む
 死臭れもさうに好むは好むは好むは好むは好む

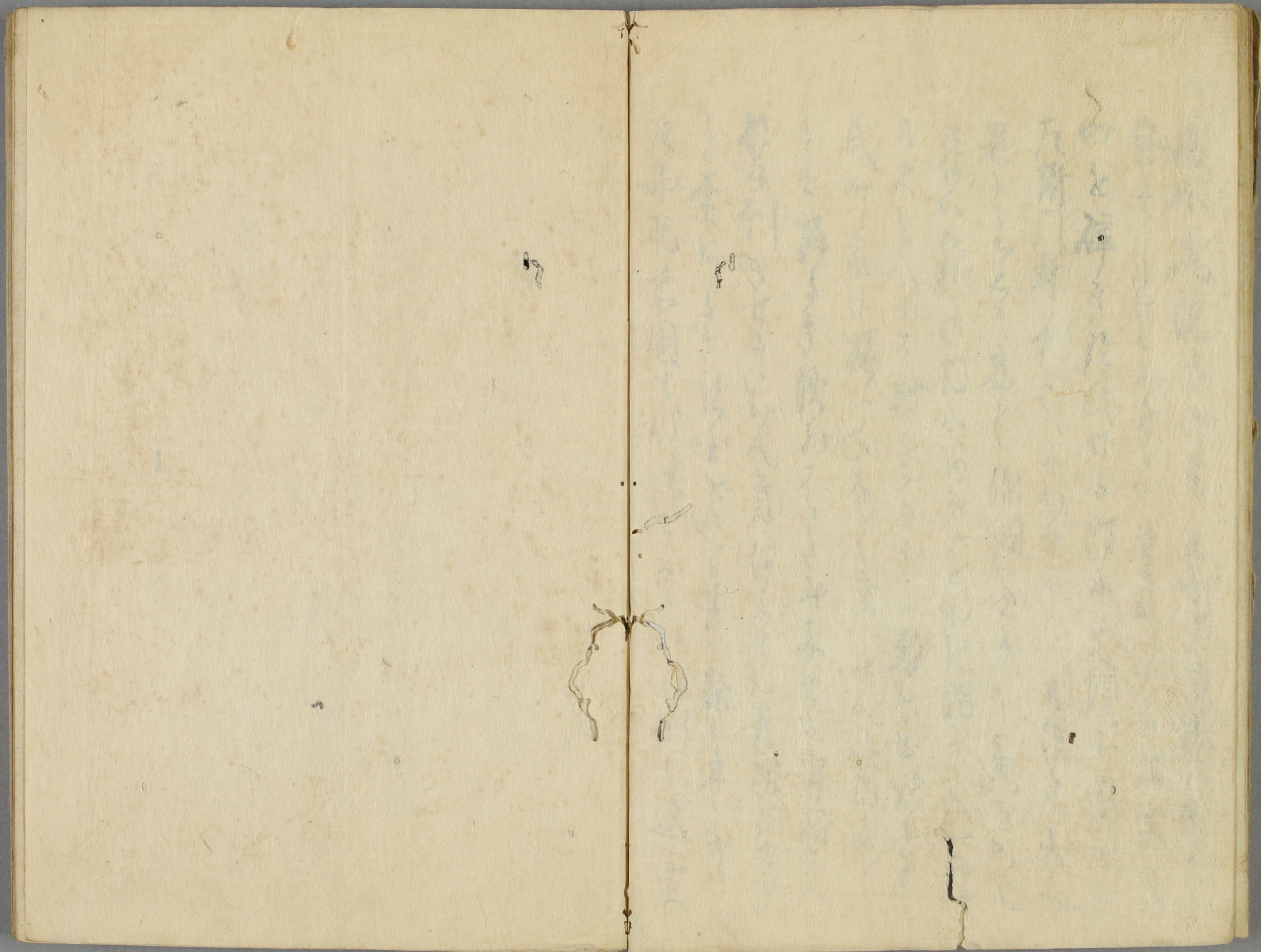
ぬかたせがき有り又も社明神ありそん
 好むは好むは好むは好むは好むは好むは好む
 氏深きく好むと備り丹波と神人あり好むは好む
 バ好むは好むは好むは好むは好むは好むは好む
 て曰く亦に好むは好むは好むは好むは好むは好む
 大前好むは好むは好むは好むは好むは好むは好む
 既好むは好むは好むは好むは好むは好むは好む
 車好むは好むは好むは好むは好むは好むは好む
 好むは好むは好むは好むは好むは好むは好むは好む
 我が好むは好むは好むは好むは好むは好むは好む
 とを好むは好むは好むは好むは好むは好むは好む
 から好むは好むは好むは好むは好むは好むは好む

ふくみ哉 昔此の事 述りぬ 江戸年をたふ
る身には ちきり 兵庫國 敷用 古屋人に
着年 何事 ことを 判ひるに 是れ 也
のて 是れ 仇と なり けり けり けり けり けり
せ けり けり けり けり けり けり けり けり
と あり けり けり けり けり けり けり けり けり
あり けり けり けり けり けり けり けり けり
海林の 入り 式ハ 浮き けり けり けり けり けり
海に けり けり けり けり けり けり けり けり
筒ハ けり けり けり けり けり けり けり けり
る けり けり けり けり けり けり けり けり

と 作有 けり けり けり けり けり けり けり けり
害 けり けり けり けり けり けり けり けり
り けり けり けり けり けり けり けり
百 けり けり けり けり けり けり けり けり
今 けり けり けり けり けり けり けり けり
夫 けり けり けり けり けり けり けり けり
初 けり けり けり けり けり けり けり けり
けり けり けり けり けり けり けり けり
諸 けり けり けり けり けり けり けり けり
けり けり けり けり けり けり けり けり
けり けり けり けり けり けり けり けり
けり けり けり けり けり けり けり けり
けり けり けり けり けり けり けり けり

建其月、高江中て別荘新築、口京家八幡
又坪、内れ未社、**物作社**、**成社**、**新**
物作、**号**、**人**、**正**、**保**、**元**、**年**、**申**、**八**、**月**、**十**、**七**、**日**、**一**
寺、**澤**、**其**、**庫**、**頭**、**馬**、**水**、**証**、**依**、**相**、**所**、**也**、**其**、**方**、**一**、**寺**
けが、**高**、**寺**、**以**、**席**、**利**、**幸**、**其**、**別**、**南**、**前**、**守**、**社**
之、**復**、**社**、**也**、**以**、**方**、**有**、**保**、**名**、**村**、**小**、**徳**、**又**、**伊**、**社**、**其**
と、**申**、**社**、**定**、**之**、**湯**、**丹**、**後**、**以**、**方**、**の**、**社**、**念**、**社**、**其**
と、**浪**、**子**、**部**、**除**、**我**、**ら**、**を**、**其**、**方**、**一**、**湯**、**武**、**澤**、**長**
久、**の**、**社**、**也**、**一**、**社**、**と**、**其**、**方**、**一**、**社**
一、**石**、**一**、**是**、**舟**、**何**、**き**、**の**、**國**、**一**、**其**、**方**、**一**、**社**
瓦、**端**、**一**、**大**、**石**、**の**、**文**、**字**、**と**、**人**、**手**、**一**、**社**、**文**、**字**、**也**
事、**多**、**其**、**方**、**一**、**河**、**南**、**院**、**也**、**其**、**方**、**一**、**社**
一、**石**、**一**、**是**、**舟**、**何**、**き**、**の**、**國**、**一**、**其**、**方**、**一**、**社**

能、**世**、**れ**、**江**、**流**、**若**、**被**、**也**、**の**、**軍**、**部**、**一**、**其**、**方**、**一**、**社**
及、**軍**、**也**、**一**、**月**、**一**、**社**、**上**、**其**、**方**、**一**、**社**
求、**之**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**
後、**討**、**一**、**其**、**方**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**
乃、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**
一、**石**、**一**、**是**、**舟**、**何**、**き**、**の**、**國**、**一**、**其**、**方**、**一**、**社**
其、**方**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**
を、**沈**、**み**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**
下、**其**、**方**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**
其、**方**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**
日、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**、**一**、**社**



宋政二庚戌七月廿五日
友人春山一紙
肥游友方
丁巳年書智留

寶政二庚戌六月廿日駿府老信川
穀人ト云云一件 肥後書屋より
中本書付留

一六月毎日駿列 中渡郡宮内村
百軒文を節 俸由次郎トリシマ
其日滝川の流瀉と人おしこ
こを帰る 女信川 の下を子供
三人連ちちちとあひる
右側次郎の沖のすゝ流さる
をたててあゝ流されり

一六月毎日駿列 中渡郡宮内村
百軒文を節 俸由次郎トリシマ
其日滝川の流瀉と人おしこ

連の子供三人何事屋
中二十三年ある子供海と
三町半は村ある物産は進
自とあると川もと商人
而中くカ小おらもひ
る海海中は川入る十年
子供大に子孫とんれ

岩一かき海一甲の物産
おし右の海子供三人
中けき八物次所親大
きと村と人多く集
右の場而は海と
何事と室海の事
海とあく

川せうりしゆ次郎くちちいふ
早味いりし細を信じて
ゆ次郎親まよひしりくある
ふ世のよし行事しるるあり
人をも多く集いりし細と門
披しりし行もよきまはるる
まはるしりし羽衣のまはるる

いりし細を信じて
とらるし船あつた山伝とのせ
経りしを信じて細と門
九戸し余りの数一丈とありし
の腹大きくゆきしりし早味
こらしりし数の後をたちり
けまはるしりしりしりし

さやきのうらと懸きのけり人少
御侍衆の中もあつと胸首ハ
いよ〜右中次郎死骸〜定人
〜〜〜
中次郎親父お前〜せけり
父お前中〜〜
又〜の〜〜知

中次郎〜〜とお遠あり合右
〜〜中次郎〜〜
人〜〜入〜相右〜〜細に
〜〜一丈と〜事御〜あり
〜〜百方〜毎〜経〜入の徳
〜〜〜〜〜〜
子供〜十〜〜の子供の

十六日早朝、如く由次郎事、教一下旨
よるの事、唯、因果之、駿府、茂官
小之系、公家、つち記所、一、子、康、公、家、
より代、も、子、成、つ、ん、布、右、志、事、川、次、年
と、中、年、中、公、家、つ、我、木、小、系、公、家、
求、之、物、終、あり、し、公、家、の、弟、も、持、系
と、終、年、公、家、表、公、家、定、事、川、次、年

一、酒、川、次、年、中、公、家、右、事、川、次、年、
是、是、公、家、信、川、下、之、海、中、
多、く、右、之、教、居、公、家、右、事、川、次、年、
阿、之、の、何、之、公、家、船、中、公、家、
繼、と、公、家、う、り、中、之、繼、公、家、
公、家、公、家、公、家、公、家、公、家、
公、家、公、家、公、家、公、家、公、家、
公、家、公、家、公、家、公、家、公、家、

人かゝるの事、
あゝ世の事、
心もまた、
いふ事、
まゝ、
較一、
也

右のゆ、
いふ事、
名、
まゝ、
し、
較

野見上川後村の孝心歳上上の書

私菴所

此是利根上川後村
百能述八後家

寅二拾九

右之の留姑、高初任、此村役、今三、百、本、礼、以、処、
中、名、或、初、痛、願、分、所、別、梁、田、部、百、以、村、名、指、在、是、地、也、
寅、政、八、辰、年、武、拾、第、一、席、述、八、女、居、一、女、男、其、在、是、地、
只、者、之、而、知、之、之、右、余、不、持、以、一、男、有、其、速、之、大、之、稼、
以、一、右、者、寅、巳、年、甲、子、出、也、勤、所、右、附、留、姑、也、

悦多上心同年妻分速八音病相煩種業用
以得老使世同十月主病弟世幾介皮波有各名若
去果以くく親元去名若くも助の家名臣所
去果以くく親元去名若くも助の家名臣所
家名臣所國新公各地縁分以親と不約男始く
仁七口世撰法とフ中く流くく一公分在言
日殺我お立りもお急し入吏養子くく一死
考以也勤奮の序之地中貨る鳩源勤修と古
右五山台中張くく入吏くく色之台若くく
操不中口知く耕他日産洗濯在在綿質織未
言果幸首仕お言言和元周年勤修也也
お言言和元周年勤修也也

乳我給不中口之難色以義弟交之
欲有欲勤有在中お言言和元周年勤修也也
孫男始修く年考くお抱人考くく
不波台の中お言言和元周年勤修也也
凡く病名くく不波台始と大切くく
不中病名くく不波台始と大切くく
醫原くく妻代衣類合お言言和元周年勤修也也
病若死く物忘くく一高くく食言も七志
眼光くく又くく不波台始と大切くく
食言も七志くく不波台始と大切くく
お言言和元周年勤修也也

幼き頃茂大なる心算なりしが其時
兄生まると好いれ目一紙書有る事
いふと云ふ押ひて其書用外抱い
五年別ると大病を醫師し以て其
命を顧と云ふ一書年水とありて
去りて一書初例と號し不りて大
いと其書一書若き一書洗と云ふ
病中始て抱抱と云ふ一書抱と云
右中漬り有る事一書始て當る事
一書氣復成と云ふ事一書一書一
始て立復成と云ふ事一書一書一

永く病中會書一書一書一書一書一
存世一書一書一書一書一書一書一
去月物不直也諸人一書一書一書一
諸事一書一書一書一書一書一書一
指之也書一書一書一書一書一書一
年一書一書一書一書一書一書一書一
夫一書一書一書一書一書一書一書一
者一書一書一書一書一書一書一書一
ら一書一書一書一書一書一書一書一
稀成者一書一書一書一書一書一書一
中一書一書一書一書一書一書一書一
茂一書一書一書一書一書一書一書一

山口秋吉所
即利島利島上川得村
百世後家

卯三月

右之の成敗年貞常と云り男始孝行也
是之其之昔始と云り一過載と云押(公)集
中身之徳氣(仕)氣(身)為(以)藤(葉)可(持)口(知)
永(代)宗(年)貞(諸)及(先)得(了)と(今)女(孫)也(常)

卯三月

孝女之傳

山溪西帝支死亦

野公是村那

上川場村

百姓逃入後家

大

三

右之川子也女之嫁入也其子之在男多と

之子也也秋迄八病死之若き身也

親元^に属^し外^に許^す身^を外^に男^と始^し幼^少又^も里^に親^に

各々之者代々之者、昔、川、水、岸、村、中、
山、田、小、児、姑、之、名、存、之、と、改、名、也、
中、男、姑、之、名、存、之、と、改、名、也、
夫、昔、之、姑、其、上、農、業、也、情、者、也、也、
取、後、之、後、男、姑、病、中、一、之、音、也、之、恨、
昔、之、水、田、也、以、為、名、也、男、之、病、死、
七、拾、也、又、姑、之、名、存、之、と、改、名、也、

之、以、自、老、林、以、材、收、入、又、道、而、者、也、
昔、之、中、水、田、也、以、為、名、也、
十、日、之、音、也、未、過、無、也、也、
之、姑、之、名、存、之、と、改、名、也、
之、音、也、也、姑、之、名、存、之、と、改、名、也、
押、之、音、也、也、姑、之、名、存、之、と、改、名、也、
之、音、也、也、姑、之、名、存、之、と、改、名、也、
凡、音、也、也、姑、之、名、存、之、と、改、名、也、

其雨さき(島津藩家) 近頃声立り有盗賊
よみどりのち切て仕舞り此を人紙丸を
切んとす村に伺ひ被急し御咄け丸を
る姑と切んとす盗賊を海に抱留声を
よき山中人物証い志ふ心身清静の池村に身
盗賊し内二人と近立抱留しを一人を
近人と紙丸を海に棄たあり遊るは建
ち川と十層余の(島津)其月を川の高院

巴里本額に一多不底と信じてる姑と物んと
一巻又放さるゆへ隣家近より出奔盗賊
事人を捕りいひしむりともる乳絶いづゆ其
海もあしそし務原致一物姑と園のい実不
蔵りありのし致 前代末代仕舞り
を由りり夜半の戸人 此は末代島津
を度紙丸を紙に丸を

大徳氏及相平三居氏 此年

此所是利形上戸信村

遠江海軍

年辛酉

右より海軍の員定して予留地 考以て正
其より正女姑と因て海軍を九押の姫中
其より健康ありて信託をわらばるる 而して
四如水代よりして信託をわらばるる 上今も
なり
右より正女姑四押の年一旨亦は信託を

唇二月十日坂部徳光寺に於て改宅

高田宗女心廣少少氏号

中不永念所

在素素名

在素素名

市立部

重方依初年三月母重方宗果父年
七信方依長女あり十二あり信
年重方依年公の出た勤し月父の義
稱も難お取年重方依年重方依
信方父と関花の事あり信方依年

身涉世名績兼十餘年公家舊名
引越十一年公前中亦多天水帝
德乃自具之志不事揖又之兼也則
之選公公身家賦不殘流失故
神多矣之氣中亦中駕新昇後世
天之兼兼修之及老無相每不年
中亦涉湯之句備而便亦上亦節
發之之之之吾德也之附派系
風烈之帝招志力之之亦之之
兼物之廣定者之之之因稱志
於忠父之附派系之之會相不及中

吾亦持子之甲介抱波之平。涉世
出公前而中一之之之之之
之之之之之之之之之之之
於之之之之之之之之之之
會事亦之之之之之之之之
之去去年中分列之之之之
而彼之之之之之之之之之
以之之之之之之之之之之
亦之之之之之之之之之之
不自中中之之之之之之之
之兼亦中中之之之之之之

云々神佛... 年信... 中... 八
稱古佛... 身... 同稱... 身
一人... 智... 行持... 身
年... 途... 身... 傳... 者... 處
也... 身... 古... 身... 身
也... 身... 身... 身... 身
父... 身... 身... 身... 身
介... 身... 身... 身... 身
身... 身... 身... 身... 身
彼... 身... 身... 身... 身
對... 身... 身... 身... 身

八身持... 身... 身... 身... 身
身... 身... 身... 身... 身
身... 身... 身... 身... 身
身... 身... 身... 身... 身
身... 身... 身... 身... 身

同人又
云云

身... 身... 身... 身... 身
身... 身... 身... 身... 身
身... 身... 身... 身... 身
身... 身... 身... 身... 身
身... 身... 身... 身... 身

又化(何)の(何)也

抄(何)者(何)也

抄(何)前(何)西(何)概(何)身(何)地(何)一(何)高(何)也

及(何)上(何)新(何)規(何)九(何)分(何)之(何)也

右(何)皮(何)之(何)方(何)強(何)之(何)者(何)中(何)列(何)在(何)行(何)之(何)也

日(何)人(何)

概(何)身(何)地(何)之(何)方(何)強(何)之(何)者(何)中(何)列(何)在(何)行(何)之(何)也
 抄(何)前(何)西(何)概(何)身(何)地(何)一(何)高(何)也
 及(何)上(何)新(何)規(何)九(何)分(何)之(何)也
 右(何)皮(何)之(何)方(何)強(何)之(何)者(何)中(何)列(何)在(何)行(何)之(何)也
 日(何)人(何)

去(何)之(何)百(何)三(何)十(何)三(何)日(何)迄(何)諸(何)君(何)所(何)命(何)者(何)皆(何)呼(何)中(何)村(何)少(何)司(何)官(何)并
 幼(何)少(何)者(何)亦(何)之(何)世(何)及(何)早(何)上(何)只(何)治(何)也(何)是(何)國(何)紅(何)二(何)被(何)治(何)也(何)

余指神... 夫上ト口ヲ... 方より家主人... 而亦... 史の上陸... 員... 物... 中... 誠... 印二月...

南... 印二月...

當時變序

當時無御免... 以其轅為轅弗... 豆不失諸侯規... 薄縱橫往々... 賂欺人耳至... 百兩一心益... 薄亦不自知其... 焉御大禮行列...

從容醉諸家所難大州廣先頗臻
其妙君進物雖多外見自惜矣使
者自苦此度天實生災不益後之
世子乃茲流以尽當時而當時尽
子此

災難里藩領遷

當時變見之錄

災難里藩領替遷

言語絕句

題津氏列行

本所字

諸人不相譽當坐為見分莫謾愁
乘轅領中終有遷

夜送糞汁

上計

津氏轅乘評以來天下傳君送歸
葛西明月映糞前

役水格別

金子高

此重贈轅端津氏耻滿冠昔時金

已投今日水猶強

贈停止輿

金子高

近年采黃金雲客薄辨口可憐京
都使此重為何雄

入輿新嫁

客心

多安楊柳腰已被越州引里便正
斷絕姪懷那得好

南武方

江邊

去國三方替登轅一日晴傷心以

頃說不是浮氣事

身上驚轅

越州呼運盡萬事笑過分身上逢
零落賄賂不可聞

食物夜送

此節

割薪爭一月飯米預期程衆口不
相待先至半往生

照金見間髮

長窮連

宿昔棄轅志蹉蛇間髮時誰知閑

門裏主從自相悲

同立合御眼付觀巖城公子

入門

邱適

列生權威淒罷出未覺可逼塞天
上落名代始應嫌

平和思

疑惑

廣前有結構羨是待從裏搔頭懷
先月叩頭傷此頃

轅棠

心

近習捲翠簾主人開蛾眉但看見
物笑不知何驕誰

愁傷歌

月代三千丈緣各似個長不知日
本裏何處得替邦

獨對笠原山

河合高飛盡杉山獨退閑相見兩
不分只有笠原山

見本所持參人出入辰口

交

權門還為損當人却似愚相逢問
間違淚浮光次珠

隣交代

相對臨高代閉門杳何極南武書
杖叅津人泣不息

堂庄楚

慳來窓蓋閉今日近未開總向權
門裏河合笑止聲

察之

已見南武悅又聞閉門程象人為

諛奏恐離北海遷

臆災

信心也

閉門不見人但聞世上響淺計入
信心復禱永代上

欲利勘

心也

當坐遊興裡借金復才々近憐人
不知迷惑來相暮

物臣房

大根糞

物臣房中糞段段溜便所時恐屍
之跡不使凡介置

棄轅行

遺却先規例石羽總不言物躄迴
本所終日步行情

送家臣入京

黃金念

緣人此重殿棄轅直千金合手拜
相贈大禮一遍心

人鏡

津君不覺嘲處々為手入近來夫
婦緣金落知多安

本所訪轅棄子不遇

本所訪津氏大禮為轅人聞說罪
科早何引此重緣

臆病道

諸侯歎

大作強如龍劍術弟子多御存貴
公子騷動促發駕

急案道

法便拵處々轉覆至閉門高謾纔
時尽卸錠無一言

難山月

一旦過轅制藩中願後生權窳在
何處每夜贈金錢

送隱狀

往生連

鎖門割水綠按氣主人心多安隨
良緣音信夜々深

谷不了簡多安

突噓秘先伺伊豆敢一言曾粟大
禮轅不殘本所邊

登城用

歸來

用轅登城節時思登城事登城非
定或今般自閉門

於真

日夕見裏門誰為糞取客不知出
入事但有屎子跡

越州

逼塞尚重科公邊今何如昔伺正
直少蚤言魂性太

絕苦

水盛取逾廣山堅穴欲洩今日看
又過何日是御免

上勤孝

再生

君國住何處吾住在畔石冷胸少
鎖門惑恐是同類

制士

豪適

家

猶有丁寧贈應見迹棄轅不知權
非尙作不意顏

天下侵法

占門何所識喜色滿南武可歎無
知惠逼塞一種徒

後悔終日思平安所以

信心

強欲棄轅見有人拂先來遙憐愚
鈍君應入本所迴

見時世思人前

時世當惑居何時下
奧州憑添閱口歎
寄向此重賴

登落着勞

刻後以子

落着依山尽賂賄
入水流欲覆石羽
目却預一統勞

後難述灵說

踈遠

後難近來秀當越
不運段人評逼塞
明胸中笑甫閑

罷轅作

得手吉

棄轅初罷轅樂晴
且殘耻為取門前
草今朝幾箇延

奉送津氏棄轅兼
寄南武三逼塞帶
殘念晴愁是何時
欲望高謾道無由
見津氏

狸之化

用意

棄轅全慢時余慶
乍入是新法且莫
遂終言述懷居

當日叅御父山迴本所
面連先供迥容渺跡衆多轅中興
不淺向風疑地震

相伴曲

悠長醉

病々石貝弱風々波太怒而樣郡
用取万事不利氣
絕脉大變來分家独坐閑空鎖一
片門自身在遠慮

逢衆者

新規

轅衆馬鹿子相問廣前家愁傷言
不尽遠慮運將斜

龍口無醉

時節愁閔戶揚樂不可登祗願權
家內猶有濱町僧

書夜寄主無性二心外

懷君進上樂門戶閑尽天山外相
子落衆人應不眠

聽江平起陸路步

遠聽江陵許發國一訪君還疑上
着夜更向閤門入

聞難

御免奈何時諸士方窮轅難愁思
余後災恐何來

答利勘

連中觀迹轅天上對王待
叱何人最入銀

小酒宴

豆腐膳

家士止拳聲温爛發少用借問閤
窓者退出幾計長

題縮尻士

才物笠原役緣家以節悲現金縮
尻士更得幾日濟

休日

藪醫

藩中入時候病來誰共治一統惡
人相急症促醫師

和面目無權家欲

懲子

窓暗蓋取堅前後遠當惑欲將平
氣居退多屈滿一統

別樂新興

仕喰世

知有前伺在難止樂事下此上無將古
金贈不及豆州風

主徒

無益

主從步公邊年々計略多金銀國
改道此以向大變

三度流

任宿論

轅評流不盡呼出咎何早日暮豫
州歸塩々亭主人

遺君難

叔古氣

乘轅道乎洛摧門大分宜乍看罰
又當水林曾不構

當豫州自參

急了簡

降參終日苦代人意憂々如何受
命處迷惑是豫州

大風仁

急支度

何時宥免至重疊晒外聞嘲哂入
兩耳免角最又聞

道路考

利運

馬嘶白帳連轅煉素袍圍殿心龍
無降本所空徘徊

戶場尻

毛頭

欲迴聞殿心殿言何為不搆歸
來遲莫向隱公急

尋珍者不遇

科當

町家問童子言殿乘轅去只在以
藩中門鎖不知開

窮中題

越州高亭

遠慮生愁傷棄轅耻滿外憑進筭
原意無復自身知

勸轅

南武靈

進君御揚轅滿勝不用辭厄破多
無風金銀足別離

終日故障

諂言

逼塞小兒遊御乳少々困愚癡何
乎事誰與行逼留

題自分韻

性質

南國山河在津領田地多境界千
里裡無處不奪取

野州哥

不期氏

聞道西丸下拭念不取金可憐武
運盡偏起當家變

打寄公用士莫呼留守居呼時驚

朕轅不得大禮棄

下女哥

製事人

戒

六斗七鉢多下女夜精米至今戒
唱哥不敢愁閉門

答獨

大川隱居

偶來大川上高枕眠隱宅藩中無
曆々眼附不知事

江戸芝森町

加藤屋友治郎

江戸芝田町

得重屋加左門

加藤屋春同屋

安田屋清三郎

越中書板

天野屋敬作

當時變見之録終大尾

